

リラグルチドのインスリン併用療法における有効性および安全性の検討

五嶋由紀子, 岡田 洋右, 鳥本 桂一, 田中 良哉
産業医科大学医学部第一内科学講座

Key words▶

GLP-1製剤
インスリン療法
CGM
2型糖尿病

要旨

実地臨床におけるリラグルチドとインスリン併用療法開始初期の血糖動態, 有効性, 安全性を検討した報告はまだまだ少ない。今回, インスリン治療中の2型糖尿病患者13症例に対して, リラグルチド追加による短期血糖改善効果やインスリン使用量の変化, 安全性について検討した。リラグルチド併用7日後に平均血糖, 血糖変動ともに有意に改善し, 追加インスリンの大幅な減量が可能であった。CGMを装着した4症例では平均血糖, SDともに改善し低血糖は消失した。また, 重篤な有害事象も認めなかった。以上の結果から, インスリン治療中の2型糖尿病患者に対して, リラグルチド併用療法は低血糖を増加させることなく治療強化が可能であり, 有効性, 安全性ともに優れていると考えられる。

○はじめに○

リラグルチドはGLP-1 analogの中でも長時間作用型といった特徴があり, 単独で優れた血糖改善効果を示し, 低血糖を生じにくいことが報告されている。わが国においては, 2014年9月以降, リラグルチドとすべての糖尿病治療薬との併用が認められるようになった。

経口血糖降下薬(速効型インスリン分泌促進薬, メトホルミン, α -グルコシダーゼ阻害薬, ピオグリタゾン)と併用した試験では, 重大な低血糖を起こすことなく, 他の経口血糖降下薬を追加した場合と比較して, HbA1cの改善効果, HbA1c目標値の達成,

空腹時血糖値の改善効果, 血糖自己測定器(self-monitoring blood glucose: SMBG)での7点血糖値プロファイルの改善に優れていたと報告され, その安全性と有用性が報告¹⁾されている。また, 日本人を対象としたインスリンとの併用試験では, インスリンとリラグルチドの併用群がプラセボと比較してHbA1c改善効果, HbA1c目標値達成, 空腹時血糖値改善効果, 平均血糖値改善, すべての食事における食後血糖増加量改善に優れており, 1日インスリン投与量も少なかったと報告²⁾されている。しかし, リラグルチド・インスリンの併用療法開始初期の実地臨床における血糖動態, 安全性, 有効性を詳細に検討した報告はまだまだ少な

い。

今回, インスリン治療中の2型糖尿病患者におけるリラグルチド追加後初期の血糖改善効果やインスリン使用量の変化, 安全性について検討した。

○対象○

2014年9月~2015年9月までに産業医科大学病院および産業医科大学若松病院に入院し, インスリン併用下でリラグルチドを投与された2型糖尿病患者13名を対象とした。この研究においては対象患者基準として, 年齢20歳以上とし, ケトーシスまたは非ケトン性高浸透圧昏睡状態, 感染症, 急性期疾患患者は除外した。